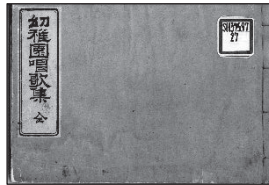
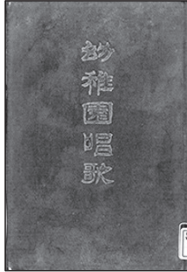


ようちえんしょうか

＃2 幼稚園唱歌

編者：共益商社楽器店（きょうえきしょうしゃがつきてん）

刊行：明治 35 年（1902）



※左より、『幼稚園唱歌』、『幼稚園唱歌集』、『幼稚園唱歌集』

♪ 解題

■ 内容

『幼稚園唱歌』は、就学前の子どもたちに向けて作られた歌唱教材である。緒言に始まり、凡例で、創作上の考え方や編集方針、指導上の留意点が記されている。続いて、目次、楽譜付きの唱歌が全 20 曲収められている。唱歌は、春から冬へ四季に沿って配列されている。その中には、現在でも馴染みある歌もいくつか見受けられる。それらは歌詞に変更があるものの、100 年以上に渡り歌い継がれている。

『幼稚園唱歌』は、東基吉（ひがしもときち）の「子どもたちにもわかるやさしい歌を作りたい」という想いをきっかけに誕生した。基吉は、東京女子高等師範学校（現・お茶の水女子大学）助教授で附属幼稚園批評掛を兼務し、わが国最初の体系的保育論の書『幼稚園保育法』を著した人物でもある。基吉の提案により、妻の東くめと滝廉太郎が中心となり、本書の発行に至った。

この唱歌集の最も重要な特徴は、幼児でも歌いやすいよう工夫されたことである。幼稚園児に向けた唱歌集は、類似のものがすでに発行されていたが、それらの歌詞は文語体であり、教訓的な内容であった。そのため、子どもた

ちには理解が難しい歌詞であった。それに対し、この唱歌集は、やさしい話し言葉で表現された、日本最初の幼児向け口語唱歌集である。本書の凡例に示されているように、歌詞は、日常生活や遊びなど身近な題材を扱っている。これまで子どもの動きそのものをうたった歌はなかったが、擬態語も多く用いられ、子どもたちから興味関心を引き出すよう考えられている。

もうひとつの特徴としては、全ての曲に簡易な伴奏がつけられていることであり、幼児唱歌集として、日本で初めて伴奏のついた唱歌集としても知られている。このように、歌詞及び曲のいずれにも、今日の幼児教育につながる日本の音楽教育史上画期的な唱歌集になっている。

なお、表題に幼稚園を含む唱歌集としては文部省音楽取調掛編纂の『幼稚園唱歌集』（明治20年（1887）12月出版）がある。これは、日本最初の音楽教科書として刊行された『小学唱歌集』（＃1）と並行した時期に編纂が進められた。この「緒言」において、幼稚園における唱歌教育の目的や内容、方法が端的に示され、それを多くの教師がみとめるようになるきっかけになったとも指摘されており、唱歌教育の歴史において重要な位置を占める教科書である。

一方、“愛媛県平民”真鍋定造（まなべ・さだぞう 1856-1891）により編輯された『幼稚唱歌集』は、『幼稚園唱歌集』よりも数か月早い明治20年3月に発行されている。両者は判型が同じで、掲載される歌も重複しているものが多いが、その関係や経緯は不明である。なお、真鍋は、同志社英学校において新島襄の教えを受けた人物で、キリスト教の伝道師として活動した後、編集者として『幼稚唱歌集』『聖書語類』を編纂した。また、日本最初の少年処少女雑誌といわれる『ちゑのあけぼの』の編集にも携わり、児童文化に足跡を残した。

■ 作者

本書は、共益商社楽器店によって編集・発行されているが、実際は滝廉太郎が編集の中心となって発行された。緒言には、作詞者と作曲者の名前がまとめて記されているが、各々の曲については特に明記されていない。実際は、その多くの歌詞を東くめが、作曲を滝廉太郎が手掛けており、2人を中心に

歌詞も曲も新しく創作されている。

ここでは、主要な2人について紹介する。滝廉太郎（1879-1903）は、明治の西洋音楽黎明期における代表的な日本人作曲家である。「荒城の月」「花」の作曲者として世に知られているが、このように幼児音楽においても名曲を残している。父親が神奈川県書記官に任ぜられ、幼少時代は、横浜の官舎に3年ほど住んでいる。その官舎の跡地は現在の神奈川県立音楽堂・図書館が建っている付近である。東くめ（1877-1969）は、日本で初めて口語による童謡を作詞した童謡作詞家である。東京音楽学校（現・東京藝術大学）出身で2級後輩に滝がおり、くめが滝に相談し、本書を作るに至った。また、滝の後輩であり、親友でもあった鈴木毅一（きいち）、児童文学者の巖谷小波も携わっており、本書は、ひとつの想いに共感した人たちの協力のもとで発行された。

■ 収録曲

※補記の無い曲は全て東くめ作歌、滝廉太郎作曲

ほうほけきょ（滝廉太郎 作歌・作曲）/ひばりはうたい/猫の子（鈴木毅一作歌・作曲）/鯉幟（こいのぼり）/海のうえ/桃太郎（滝廉太郎 作歌・作曲）/白よこいこい（鈴木毅一作歌・作曲）/お池の蛙（東くめ 作歌、滝廉太郎 編曲（ドイツ曲））/夕立/かちかち山/水遊び（滝廉太郎 作歌・作曲）/鳩ぼっぼ/菊/雁（がん）（滝廉太郎 作歌・作曲）/軍（いくさ）ごっこ/雀（佐佐木信綱 作歌、滝廉太郎 作曲）/風車（かざぐるま）（鈴木毅一作歌・作曲）/雪やこんこん/お正月/さよなら

♪ 類似の唱歌集

- ・『幼稚園唱歌集』文部省音楽取調掛編 東京音楽学校 1887 [SH375.97/27]
- ・『幼稚唱歌集』真鍋定造編 眞鍋廣助 1887 [SH767.7/54]

♪ 参考文献

- ・『滝廉太郎』小長久子著 吉川弘文館 1968 [762.1/15]
- ・『日本唱歌集』堀内敬三・井上武士編 岩波書店 1991 [767.7/203]

＃2 幼稚園唱歌

- ・『瀧廉太郎』松本正著 大分県教育委員会 1995 [762.1/179]
- ・『瀧廉太郎』海老澤敏著 岩波書店 2004 [762.1/208]
- ・『童謡・唱歌でたどる音楽教科書のあゆみ』松村直行著 和泉書院 2011 [767.7/240]
- ・『唱歌教育成立過程の研究』山住正己著 東京大学出版会 1967 [N0/1411]
- ・柿本真代「初期同志社英学校に学んだ真鍋定造の軌跡：伝道師から児童雑誌の編集者へ」（『新島研究』no. 102 同志社大学同志社社史資料センター 2011）

※当館未所蔵 同志社大学学術リポジトリで閲覧可